

『ユーモア考 ～トクさんの12ぴよこ』

ひじり在宅クリニック 院長 岡本 拓也



グループホームに暮らすトクさんは、今年の8月で103歳になります。

親分肌のトクさんは、今でも皆が集まるリビングルームの車椅子にどっかと腰を下ろし、そこにいる皆にしっかりと睨みを利かせています。

トクさんは家族と一緒に東京都荒川区に住んでいましたが、東京大空襲の際に家を焼かれてしまい、家族で北海道に疎開してきて、そのまま北海道に居つくことになりました。5年前までは息子と二人で助け合いながら暮らしていましたが、その息子に先立たれてしまい、独居生活を続けることは困難であったため、今の施設に入居することになりました。

先日、トクさんのいる施設に訪問診療に行き診察を始めていたら、唐突にトクさんが大きな声で、♪蛙びよこびよこ…♪と歌い始めました。他の入居者さんの診察を中断し、トクさんに目を向けました。スタッフ曰く、「そうなんです。最近、よくこの歌を歌うんですよ～」。面白いなと思って聴いていると、♪…合わせてびよこびよこ12ぴよこ♪と歌っているではありませんか! (笑) ますます面白いなと思って、「トクさん、もう一回歌ってみて!」と声を掛けたところ直ぐに歌ってくれて、♪蛙びよこびよこ**む**びよこびよこ、合わせてびよこびよこ12ぴよこ♪「あってるやん!! (笑)」思わず叫んじやいました。6+6=12ですもんね。もう一度トクさんをお願いしてみました。「トクさん、蛙びよこびよこ**み**びよこびよこで歌ってみて」。トクさんはまた歌ってくれて、

トク：♪蛙びよこびよこ**み**びよこびよこ♪

僕：そうそう、それで

トク：♪あわせてびよこびよこ12ぴよこ♪

僕：やっぱり12ぴよこなんかーい(笑)

ということで、一同ずっこけて大笑い。「でも、ちゃんと、3、6、12って倍倍になっているのが凄いな～」と感想を漏らしたら、スタッフも、うんうん、確かに、と。当のトクさんは、きょとん。「最近、何かが見えるらしく、空中の誰かと話してることも多いんですよ」という追加情報もスタッフからあり、「幻覚

さんとはどんな話をしてるの?」と尋ねたら、「そうですね…例えば、先日は、「へ～、あなたも田中さんって言うの? あたしも田中っていうのよ」って、自分と同じ苗字の人と話してみたいです」と。「ご先祖さんがお迎えに来てたのかなあ」なんて少しブラックな冗談を言ってから、「でもトクさんなら追い返したろうね」と僕が言うと、一同「そうですね」と爆笑。やはりお元気とは言え、この歳になると、せん妄の一症状としての幻視が時々あるようです。電解質異常、肝・腎機能増悪、感染症の有無、薬剤性の原因等々、ある程度の原因検索は必要かもしれませんが、この年齢の方であれば、せん妄の一つや二つあっても何の不思議もありません。

グループホームは認知症の方だけが入居できる施設で、個性的な面々がそろっており、なかなか面白い場所です。中には暴力的であったり、暴言や介護拒否が酷かったり、夜間の不穏や徘徊がおさまらない方もいたりして、スタッフ泣かせの方もありますが、当然のことながら人間関係にはお互い様の要素も色濃くあり、施設の力量によって大きく違いが出たりもします。入居者さんの状態観察や薬の管理はきちんと行いながらもあまり管理的にはならず、大きな家庭のような温かい雰囲気の施設に暮らす入居者さんは幸せです。

思うに、笑いの要素はすごく重要だと感じています。グループホームに暮らしている皆さんは、変なことを言ったりしたりするんですけど、そういったことを楽しみながら明るく笑い飛ばす姿勢を持っていることは大事だと思います。入居者さんのおかしな言動を余裕をもって笑顔で受け止め、明るく笑いの絶えない懐の深い空気感のある施設は、素敵だなと思います。それは、決して認知症の入居者さんを馬鹿にしての笑いや冷笑ではなく、人間存在の弱さや不完全さや欲や業や愛すべきヘンテコさを丸ごと肯定するような温かい笑いです。僕自身、毎日の臨床現場で起こる出来事の中に常に笑える要素を探して拾っては突っ込みを入れながら、おもしろおかしく楽しみながら仕事をしています。